

# HELP

## イラクからの声 きこえますか

イラクでは湾岸戦争で大量の劣化ウラン弾が使用され、広島に落とされた原爆の1万4千倍から3万6千倍もの放射性原子がばらまかれた。そして昨年の米英によるイラク攻撃ではさらに多くの劣化ウラン弾が…



## いま、私たちにできることは…

■とき 6月10日(木) 18:30 開会 (18:00 開場)

■ところ 中区役所ホール

※地下鉄「栄駅」下車、12番出口より東へ50m

■講演 ジャナン・ガリブ・ハッサンさん

(バスラ母子病院小児科医・バスラ大学医学部助教授)

安田純平さん (ジャーナリスト)

■参加費 無料

■イラクの小児科医。バスラ母子病院（イブンガズワン病院）の小児がん病棟責任者。バスラ大学医学部助教授。名古屋大学病院で白血病治療中のアッパース君の来日実現に奔走。イラクの子どもたちの劣化ウラン弾被害を世界に訴えている。

ジャナン・ガリブ・ハッサン医師



■一橋大学卒業。信濃毎日新聞社記者を経て、現在フリーのジャーナリスト。戦争中もイラクにとどまり、戦争現場の状況とりわけイラク市民の被害について日本に発信し続けた。この4月、武装勢力に拉致された際にも、ファルージャ近郊の市民の状況を日本に広く伝えた。

安田純平さん

理不尽な戦禍とりわけ劣化ウラン弾に苦しむイラクの子どもたちの最近の様子を伝えていただくために、バスラの小児がん病棟で奮闘されているジャナン医師をお招きしました。ジャナン医師は2回目の来日で、アッパース君のイラクでの主治医でもあり、名古屋ともたいへん縁の深い方です。

他方、日々ジャナン医師らと連絡をとり合いながら、イラクの子どもたちを少しでも助けたいと行動している私たち支援団体の活動にとって、このたびの「自己責任論」はたいへんな制約をもたらしております。この点について、人質として捕らわれ「自己責任」のバッシングを受けた安田純平さんに、イラクの状況報告とともに大いに語っていただきます。

お二人の話から、私たち日本人はイラクの市民に対して何をどのようにすべきなのか、求められる真の国際貢献とは何なのか、について考えてみたいと思います

セイブ・イラクチルドレン・名古屋  
代表 小野万里子

### ■カンパのお願い■

イラクの子どもたちを救うための医療支援にとりこんでいます。今後は医薬品だけでなく中古医療機器を送る支援も計画しています。

ぜひ、みなさんの力で支えて下さい。

郵便振替 00870 - 2 - 59026 セイブ・イラクチルドレン名古屋

セイブ・イラクチルドレン・名古屋

〒466-0015

名古屋市中区御器所通3丁目18番地

エスティプラザ御器所4A 小野万里子法律事務所気付

TEL 052-852-1336 FAX 052-858-3851

URL <http://www.iraq-c.gr.jp>